広報 横芝

この広報は各家庭に洩れなく配付します。
発行所・千葉県山武郡横芝 横芝町役場（電話）32・249・339

新年を迎えて

横芝町長　伊藤　績夫

新年おめでとうございます。玲朗とした大気に包まれた横芝町の皆様が一入さわやかに明るい昭和四十二年を迎えられたことを心からお喜び申上げます。

幾多の問題を擁しながらも皆様の力強い御協力と御尽力で着手した町の事業の、その一つ一つが着実に完遂されておりますことは洵に御同慶に堪えません。

私が横芝町政をお預りいたしましてから、早くも十年余りが経過いたしました。

凡そ政治というものは「地域住民の生活の上にのみ存在するものである」という信念は、私が就任以来の一貫した心構えでございます。町民の皆様の声、それは巷から、地区代表の方から議会を通じて、各審議会若しくは委員会を通じて、とそのよって来る方法は異なりましても結果は皆様町民の方々の声が施策となり、事業となって現れなければならないものだと考えております。

昨年度の事業にいたしましても、総て皆様方の御考えに即応して実施されたものが殆んどであります。

市街地の方々を対象としては山武郡環境衛生事業振興組合発足による塵芥処理の問題解決、多年懸案でありました有線放送電話は、座談会の結果「公社接続秘話方式」による改修、PTA其他の要請に応えて上堺小学校講堂建設、横芝小学校プール設置、給食センターの発足、栗山地域農業構造改善事業、姥山小堤地区の青年館建設また総合開発審議会の答申に基く企業誘致のため、東洋高圧所有の栗山地籍用地購入等、産業面福祉面、又教育面にと、どれ一つとして皆様方町民の御意向を斟酌しての事業に外なりません。

しかし、事業それぞれにつきまして、完遂という言葉は用いて見ましたが、これは、何処までも、所期の目的に対してでありまして、事業そのものが終えんに達したというものではありません。国道の問題にせよ、附滞する歩道の問題にせよ、又購入した用地の転用の問題等々まだ完全解決という域には達していないものが数多く残されております。一日も早く此れ等を解決させなければなりませんが、これにも皆様の御協力なくしては、なかなか難しいことだと考えております。

毎年同じことを繰返すようではありますが、不肖老骨に鞭打ちましてあらゆる障害と取組んで行きたいと考えております。そして、地味ではありましても、着実に一歩、一歩確りと踏みしめた基盤を造り、大横芝町の建設に邁進いたしたいと考えております。どうぞ昨年同様御支援と御協力をいただけます様お願いいたしまして、私の年頭の御挨拶とさせていただきます。

年頭に当って

横芝町議会議長　伊東　巌

昭和四十二年の新春を迎え町民の皆様に心から、およろこびの言葉を申し上げ、併せて昨年中の御支援と御協力をいただいたお礼を申し上げます。

さて、年頭にあたり内外の事情を眺めますと、昨年来解決を見ずに持ち越された問題が、数多くあることが痛感されます。横芝町におきましても用地転用、国道沿歩道の問題その他が完全な解決を見ておりません。これは皆様方の御支援をいただき、至近の時期には是非解決させなければならないことだと考えております。

私共議会人が皆様の御支持のもとに議員に推され、ここに三年と有余ケ月を経過いたしました。これを顧みました時、本当に皆様の御協力と御援助によってのみ、その任務が果せたものと思はれ、只々赤面いたすばかりであります。しかしながらその間の町の発展と向上は幸いにも大凡は所期の目的通り進捗いたしております。これもひとえに皆様の御支援のお蔭と厚く御礼を申上げる次第であります。

もとより私共議会人は皆様町民の方々の代言者であり、皆様方の代りに行政を行なう町長の施策を審議決定する使命を持っております。その完璧を期するためには、皆様の納得と御理解の上で行はれる施策であるよう努力を続けておりますことは、都度お話し申し上げている通りであります。従いまして皆様があってこその私共であります。皆様方なくては私共の存在はないのであり、皆様の御協力なくしては到底果せるものではありません。

ただ、一つの仕事を営む場合、それぞれ利害得失がつきまとうことは必定でありますので、或いは御不満をお持ちの方があるかもしれませんが、よろしく御寛容下さいまして、町発展のため、昨年に変らない御援護と、温かい御教導により残された事業の解決と実現に邁進いたしたいと考えております。何卒よろしくお願いいたします。

終りに皆様の御健康と御隆昌をお祈りしまして私の年頭の御挨拶といたします。

議会だより

選挙区改正等十一議案

昭和四十一年十二月十七日付、昭和四十一年十二月二十二日午前十時招集のもの。

○第一号議題　横芝町税条例の一部を改正する条例制定について、（地方税法の改正に伴なうもの）

○第二号議題　横芝町国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について（運営委員の定数変更等を改正するもの）

○第三号議題　横芝町職員定数条例の一部を改正する条例制定について（有線放送関係職員定数を改正するもの）

○第四号議題　特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例制定について（選挙管理委員会委員の報酬を改正するもの）

○第五号議題　横芝町青年館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について（姥山、小堤、両地区の青年館の設置を規定するもの）

○第六号議題　昭和四十一年度横芝町一般会計補正予算議定について（総額二九四五〇六千円に歳入歳出共それぞれ三八八八千円を追加し二九八三四九千円とするもので主として選挙関係及用地取得に係るもの）

○第七号議題　昭和四十一年度横芝町有線放送電話特別会計補正予算議定について（公社線接続に伴なう通話料等を追加し、総額三九五四一千円に、歳入歳出共それぞれ七四三千円を追加し四〇二八四千円とするもの）

○第八号議題　普通財産の無償譲渡について（両国新田地先にある塵芥焼却場の廃止に伴ない、これを地元両国新田地区に無償払下げを行なうもの）

○第九号議題　町の区域内の字区域の変更について、（北清水地域の土地改良基盤整備に伴なう字名等の変更を行なうもの）

○第十号議題　横芝町議会議員定数条例の一部を改正する条例制定について（現定数二十名を十八名に改めるもの）

○第十一号議題　横芝町議会議員選挙区条例制定について（現在の横芝町全体を一選挙区としていたものを旧町村毎に三選挙区に分けるもの＝尚定員配置は、旧大総四、旧横芝十、旧上堺四の割合）

以上十一議題を審議決定した。

横芝町消防初出式

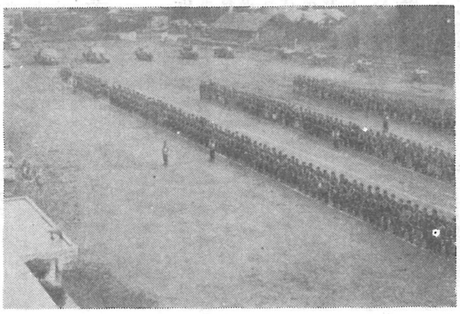
威容堂々の分列行進

昭和四十二年新春の劈頭を飾る恒例の横芝町消防団初出式は八日午前九時半、横芝中学校校庭で、団本部以下管内十四個分団の自動車ポンプほか精鋭の機器と共に、六百七十余名の団員が勢揃いして挙行された。

りゅうりょうたるラッパの吹奏とともに団旗の入場、国旗掲揚に式が開始され、次いで凛烈肩を裂く寒気を衝いての部隊教練、分列行進は威容まさに堂々として心強い限りであった。

続いて別項のとおり、栄誉ある県知事の功労章初め県消防協会長以下の褒彰授受が行なはれた。

式後放水試験の競演があり、一朝有時に際しては万全の備えあることを深く印象づけた。



堂々たる初出式

昭和四十一年　消防初出式
受彰者芳名

千葉県知事功労章
第三分団長　若林　欽一
千葉県知事精勤章
第四分団長　伊藤　和一
第七〃　椎名　武茂
第八〃　石毛　正治
第十〃　小川　富雄
第十四〃　大木　幹雄
本部分団員　栗原　宏裕
〃　消防協会功労章
第二分団長　伊藤　富雄
第六〃　高橋　好孝
〃　消防協会精勤章
第五分団長　鈴木　貞司
第十一〃　上杉　秀
第十二〃　子安　外史
第十三〃　川島　隆志
本部分団　海保不二男
第六分団　押尾　忠夫
本部分団　伊藤庄三郎
山武支庁長表彰
第四分団部長　伊藤　良一
第三〃副〃　伊藤　稔
第十〃部長　小倉　昉
第十四〃二部長行方　甲夫
第六〃二部長　市原　利一
第十三〃　伊藤　正
県消防協会山武支部長功労章
第一分団二部長小棚美喜男
第八〃部長　勝又　和徳
第十二〃三部長実川　宏
〃　〃　精勤章
第六分団　戸村　栄樹
他七名
〃　〃　感謝状
大総公民館　実川　とよ
町長感謝状
南　佐瀬　幸雄
他二八名、二区、三社
〃　無火災表彰
三十五年第十四分団第二部
二十五年第十分団
二十五年第九分団第二部
十五年第十二分団第一部
〃　優良分団表彰
第三分団
第六分団　第一部
第十二分団　第三部
団長感謝状
木戸台　佐久間　信
他四名
〃　表彰
本部第一部　小高　正一
他五十名

謹賀新年

昭和42年

横芝町役場

町長　伊藤　績夫
助役　平山　豊
収入役　土屋　直勝
総務課長　石井　富雄
企画課長　小沢　春光
建設課長　川島　忠
税務課長　田中　静
産業課長　本間　重寿
住民課長　小高　猶次
老人ホーム院長　小山　俊海
給食センター所長　押尾　光雄

横芝町教育委員会

委員長　石橋　瑞夫
委員　小川　文雄
委員　椎名　弥一郎
教育長　渡辺　祥嗣

横芝町選挙管理委員会

委員長　江鳩　勇治
委員　早川　徇
委員　伊藤　壮男
委員　実川　正男